

10/24 土

研究発表 10時30分～11時40分

〔26階A会議室〕「リア王」は希望を語れるか？（近藤弘幸）／福田恆存の「明智光秀」に見られる「マクベス」観（奥景子）
〔25階B会議室〕「研辰の討たれ」の流行（出口逸平）／古典劇の研究と実演―学生歌舞伎を事例として―（館野太郎）

シンポジウム 「26階スカイホール」 13時～17時40分

「古典演劇・伝統演劇の復元的上演はどこまで可能か」

- 能における復元の意義（竹本幹夫）
- 研究者に何ができるの？―歌舞伎の復活狂言をめぐる―（日置貴之）
- 再現・再生・創造―シエイクスピアは「復元」し得るか？（井上優）
- 古典オペラの復活蘇演くさまざまアプローチ、現代と展望く（山田高誌）
（司会 宮本圭造）



古典劇の現代上演

〔会場〕 法政大学市ヶ谷キャンパス
ボアソナー・ド・タワー



10/25 日

パネルセッション 10時～12時

〔26階スカイホール〕能の復元的上演の可能性―「能」を現代に蘇らせる手法―
（宮本圭造・高桑いづみ・中司由起子・山中玲子）

研究発表 13時15分～15時10分

〔26階A会議室〕高山凶南雄の演劇観（松岡大貴）／アメリカの名優エドウィン・ブースについて（豊間梨乃）
／ノエル・カワード Bitter Sweetの時代性―生き残れなかったオペレッタ（宮川かほり）

〔25階B会議室〕「ジャポニズムの舞台作品」に見る日本の古典劇のイメージ（多和田真太良）／現代西洋演劇の能楽様式による上演（武部好子）／古典劇と戦後「詩劇」の試み―能様式による「プロセルピナ」（ゲーテ作・三島由紀夫訳・堂本正樹演出）の上演をめぐる―（伊藤真紀）

特別講演 「26階スカイホール」 15時30分～17時

ジークリット・トホーフト氏（演出家・振付師）

「バロック演劇における歌う身体―修辭的なジェスチャー、絵画的な美、感情を彩るメカニズム、古レパートリー蘇演のための失われた伝統、あるいは新しい手法―」